島しょ地域医療構想調整会議　議論まとめ

令和元年度　第１回　東京都地域医療構想調整会議（島しょ）
令和元年８月２８日（水曜日）会場：都庁第一本庁舎２７階　島しょ保健所内会議室

（意見交換）　島しょにおけるがん医療
〇島しょの患者が内地でがん治療を行い、円滑に島に戻るまでに必要なこと
〇島しょのがん患者が働きながら、又は島で元の生活を続けながら治療を行うために必要なこと

＜島しょの患者が内地でがん治療を行い、円滑に島に戻るまでに必要なこと＞

〇広尾病院では、消化器がんについて、島で抗がん剤治療を継続し、必要に応じて再入院という流れ。大島や八丈は、医療施設が充実し、再入院せず加療が可能。（広尾病院）

〇肺がんでは、入院後数日から１週間抗がん剤治療を行い、その後 2、3 週間島に戻って生活し、2 コース目を再入院後、数日から１週間抗がん剤治療を行う、こうしたサイクルを 4 コース以上繰り返す形（広尾病院）

〇八丈病院の患者は、化学療法を行う場合、1 クール目は都内の病院、2 クール目以降、八丈で抗がん剤治療を行う。大腸、肺など内科系は可能だが、婦人科系、胸部のがんの化学療法は、フォローが難しい。患者が病院を選択し、そこの医師と八丈病院の医師が連携を取ってフォローしている。（看護協会（八丈病院））

〇島に戻って化学療法を行う際に、島で抗がん剤の扱いを行うのが心配という意見が診療所から退院前に上がってきて、広尾の薬剤師からの橋渡しを行ったこともある。（広尾病院）

〇がんは患者の移動が激しいので、最初に治療を行う病院がどこでも成立する連携体制が大事。広尾病院を中心に連携パスを作り、がん拠点病院に周知して、島の患者を戻す際の連携ルールを決めてはどうか。抗がん剤を使うときや緩和療法をやる際の島ごとの注意事項を、書き込めるといい。（東京都医師会）

〇内地で手術を行ったがん患者が創部のトラブルと精神的なトラブルを抱えることがあった。精神的な変化に関する相談先に困ったため、島の医者の相談窓口があるとよい。重症であったが、内地の医師には、「診療所の先生の対応」と言われる。島の事情を汲んで対応できる病院があるといい。（多摩総医師）

〇島との連携強化に向けて、大島と WEB で認定看護師の勉強会を行った。都内の訪問看護師や広尾病院の看護師向けの研修に参加してもらったが、島からの依頼での開催も検討中。看護だけでなく、薬剤や栄養科等、要望も聞きたい。また、他の島ともやりたい。（広尾病院）

〇がん検診が秋にあるため、検診後に集中的に広尾病院と議論できれば、早期発見、早期治療につながる。広尾病院とは、電子カルテの共有が将来的にできるといい。広尾病院以外との関係では、島で可能ながん医療の範疇をまとめると、必要なサポートが明確になってよいのでは。（小笠原母島）

〇島では、がんの症例も少なく、それだけに1件あると大変。島によって資源が違い、違う島の経験も生きにくい。連携パスというのは非常に有効。（医療政策部）

○島の診療所は、まず広尾病院に紹介し、さらに紹介が必要な分野は広尾から他院に紹介していけばよいのか。それとも情報を島の方でも把握しておき、予め他院に聞くのがよいのか。（医療政策部）
→診断、治療の方針を立てることに不得意な分野はない。診断の内容、治療の内容によって、対応できるかどうか決まってくる。（広尾病院）

○がん検診、精度管理の状況に、各島でばらつきがある。検診データを十分に活用できておらず、要精検者の把握を全くできていない島もある。がん検診の精度管理について、診療所の先生方も自治体の職員と相談し、場合によっては指導していただければ。（座長）

○島でアクセスが悪いことで、がんの発見が遅れてはいけない。都には支援をお願いしたい。希少がんなどは、国がんなどに行くと思うが、そこの先生は、島のことがわからない。広尾病院がリエゾン的になるとよいのではないか。（東京都医師会）

＜島しょのがん患者が働きながら、又は島で元の生活を続けながら治療を行うために必要なこと＞
○島民が病院から外来化学療法を勧められた際に、何等かのサポートができるといい。病院の宿舎等を安く貸してもらうなど。治療のために島から引き上げることになることも過去にはいくつかある。（多摩総医師）

○広尾病院では、がんの通院の場合は、さくら寮という、通院もしくは入院している島の患者家族用の部屋がある。1 日 1000 円、1 部屋 2 ベッドで、5 室、6 泊まで。最初はヘリ搬送の患者のための施設として始めた。利用状況は 7 割くらい。（広尾病院）

○御蔵島から外来化学療法で広尾病院に通う場合、交通費がかなりの負担。神津島では、自治体の助成金があった。御蔵島でも自治体に頼んでみたが、実現が難しい。贅沢なのかもしれないが、東京都として制度があるとありがたい。（御蔵島）

○小笠原では以前はがんの専門的な治療は難しかった。全ての患者に化学療法を行うのは難しいが、今は広尾病院と連携し個別に対応している。小笠原は簡単に外来通院治療を行うことが難しい。島で生活を続けながらの治療を模索していく。（小笠原父島）

○比較的がんのステージが進行した患者が一時的にでも島に戻ってくることもあると思うが、島の介護資源が限られていることもあり、入院中に介護保険を事前に申請してもらえるとありがたい。（式根島）